

合言葉は「浮いて待て」

夏は水難事故が多発します

川遊びやプールに行くことが多くなる季節です。川は膝より下の水位でも、流れが急になるところがありますので浅いからといって気を抜かないようにしてください。

また、プールに入るときは、想像以上の深さだと慌ててしまい、事故につながる恐れがあります。必ず深さを確認してから入るようにしてください。



西消防署 大洲出張所
水難救助隊長 伊東章吾

市内の水難事故について

市内では、魚釣りをしている人や、川や海に貝を採りに行く人の水難事故が多く発生しています。また、最近では急な豪雨などの都市型水害も多く発生しています。その時はアンダーパスなどに水がたまり水没してしまう車がありますので、冠水した道路などには絶対に近づかないようにしてください。さらに、増水した河川の様子を見に行くことも危険ですので絶対にやめてください。

事前に準備すること

ライフジャケットを必ず着用する

自分の体形に合うサイズを正しく着用しましょう。大きいサイズを着用すると、水中で脱げてしまうことがあります。



周辺の天気を確認

当日の天気だけではなく、前日が雨の場合も川は増水しています。また、夏は台風などの進路予想にも気をつけましょう。



体調管理

体調がすぐれないときや睡眠不足などで疲れているときは、水遊びや釣りなどは避けましょう。思わぬ事故につながる恐れがあります。



もしものときは…

着衣泳「浮いて待て」…



体の力を入れると沈んでしまうので、力を抜いておおむけになって浮き、救助が来るまで待つ。

POINT

スニーカーなどの靴は水に浮くので、履いたまま浮かしましょう。また、水中を歩く場合も貝や石、水生生物などから守ってくれます。

浮輪代わりに使えます

- ・クーラーボックス
 - ・ペットボトル
 - ・ボール
- など



溺れている人を見つけたらすぐに119番通報を。

いざというときは「水難救助隊」が助けます

水難救助隊は、水難事故の最も多い江戸川を中心地域を管轄する大洲出張所に配備され、16人の隊員で構成されています。県内でも3隊しかない水難救助隊は、海や河川などの事故にすばやく対応し、人命救助を行います。



スキューバセット
全部で25kgあります。



水中ライト
水中の透明度にもよりますが、20~50cm先まで照らせます。

水中ナイフ
ダイバーとしてナイフは必需品です。



水難救助隊員
小林翔易

救助ボート
8人乗りのボートで、毎朝空気圧などを点検し、いつでも出動できる体制です。



水中コンパス
暗い水中ではこのコンパスで方角を確認します。



おもり
水中にもぐるため、自分の体重の10分の1の重さを着けます。

救助訓練の様子

